

令和7年度【大田区立東調布第一小学校・図画工作科授業改善推進プラン】

◎ 小学校図画工作科における分析

児童の実態	知識・技能	- 自分の感覚や造形行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解している。 - 道具の特徴を理解して、自分の作品のイメージに合わせて使いこなしている。
	思考・判断・表現	- 自分が表現したいものに合わせて材料の形や色の組み合わせを考えたり、偶然できた形や色から造形したりと想像を膨らませて考えようとしている。 - 発想が苦手な児童も、教師の見本作品を参考にしたり、友達の表現を参考にしたりして、工夫や自分の思いを表そうとしている。
	主体的に学習に取り組む態度	- 想像が形になっていく様子を楽しみながら学習活動に取り組んでいる。 - 友達の作品にも興味関心をもっており、互いの作品の違いや面白さを見付けたり、表現の意図などを伝え合おうとしたりしている。

◎ 図画工作科の課題

- ◆自分の作りたいものを考えること、自由な発想で始めてみるということに抵抗感が強く、タブレットに頼ろうとする児童が多い。
- ◆制作進度の個人差が激しく、限られた時数の中で作品が完成しない児童が多い。

◎ 図画工作科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取組における成果◇と課題◆

- ◇道具の使い方について、写真や ICT 機器を使って示したことで安全に気を付けながら上手に使うことができていた。
- ◇ICT 機器を使って自分の作品の写真、工夫点や気づきをまとめたことで作品を作って終わりではなく、しっかりと振り返りをすることができていた。また、作品紹介での意欲に繋がっていた。
- ◆自分でアイデアを考える前に、タブレット端末で検索をしてしまう児童が多かった。
- ◆時間を意識しながら活動ができない児童が計画より遅れてしまい、個別対応することがあった。

◎ 図画工作科の具体的授業改善案

- 豊かな発想ができるよう、作品のアイデアを練る時間を確保する。
- 児童の実態を把握するとともにそれぞれのよさが引き出せるように、アイデアを練る段階ではタブレットの使用はなるべく避け、自分独自の発想を表現できるように支援していく。
- 制作進度の差に対応するために、毎回の授業で時間の見通しをもたせ、その日の目標を達成できるように声掛けを増やしていく。
- 教室をこまめに回り、作業の手が止まっている児童へ発想に繋がるアイデアを提供しながら、全体の進捗状況が合わせられるようにしていく。